

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成26年10月30日(2014.10.30)

【公表番号】特表2014-507906(P2014-507906A)

【公表日】平成26年3月27日(2014.3.27)

【年通号数】公開・登録公報2014-016

【出願番号】特願2013-554871(P2013-554871)

【国際特許分類】

H 04 N 13/04 (2006.01)

G 06 T 7/00 (2006.01)

G 06 T 7/20 (2006.01)

G 06 T 19/00 (2011.01)

【F I】

H 04 N 13/04

G 06 T 7/00 C

G 06 T 7/20 B

G 06 T 19/00 F

【手続補正書】

【提出日】平成26年9月9日(2014.9.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

左の画像と右の画像によって表される立体シーンにおける焦点面の位置を管理する方法であって、

前記2つの画像において少なくとも1つのゾーンを決定する工程と、

前記左の画像の前記ゾーンと前記右の画像の同じゾーンとの相関が最適な、決定された前記ゾーンの各々に対するいわゆる支配的と呼ばれる平行移動値を計算する工程と、

近い支配的な値からなる群によって各ゾーンの前記平行移動値を分類する工程と、

各群内において前記群を構成する前記ゾーンの前記支配的な平行移動値の平均値を計算する工程と、

前記群のすべての前記平均値の間の最高平均値と等しい、前記左の画像と右の画像との間のいわゆる相対的と呼ばれる平行移動値を決定する工程と、

前記先に決定された相対値の前記2つの左および右の画像の相対平行移動を行う工程とを含む方法。

【請求項2】

前記得られた支配的な平行移動値が異常なゾーンを除去する工程をさらに含むことを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項3】

少なくとも所定の閾値と等しい数のゾーンを含まないゾーン群を除去する工程をさらに含むことを特徴とする請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

支配的な各ゾーンに対する前記平行移動値を計算する前記工程は、

前記左のゾーンをいわゆる左の線と呼ばれる線上に、かつ、前記右のゾーンをいわゆる右の線と呼ばれる線上に投射する工程と、

いくつかの平行移動値に対する前記左の線と前記右の線との間の相関を計算する工程と、  
前記相関が最適な前記平行移動値を決定する工程と  
を含むことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

左の画像と右の画像によって表される立体シーンにおける焦点面の位置を管理する手段  
を含む撮影または立体ディスプレイであって、

前記 2 つの画像において少なくとも 1 つのゾーンを決定する手段と、

前記左の画像の前記ゾーンと前記右の画像の同じゾーンとの相関が最適な、前記のとおり決定された前記ゾーンの各々に対するいわゆる支配的と呼ばれる平行移動値を計算する手段と、

近い値からなる群によって各ゾーンの前記支配的な平行移動値を分類する手段と、

各群内において前記群を構成する前記ゾーンの前記支配的な平行移動値の平均値を計算する手段と、

前記群のすべての前記平均値の間の最高平均値と等しい、前記左の画像と右の画像との間のいわゆる相対的と呼ばれる平行移動値を決定する手段と、

前記先に決定された相対値の前記 2 つの左および右の画像の相対平行移動を行う手段と  
を含むことを特徴とする撮影または立体ディスプレイ。